

# 上顎智歯（親知らず）の抜歯を受けられる患者さんへ

日本歯科大学附属病院

## 1. 埋伏歯抜歯の場合

局所麻酔を行い、多くのケースでは歯肉（歯ぐき）を切開し、骨を露出させ、歯の周囲の骨を削って抜歯をします。切開した歯肉は縫合して処置終了となります。

抜歯後には腫れ、痛み、のどが痛いなどの症状がしばらく続くことがあります。

また、上顎の智歯は上顎洞（副鼻腔）に接しているため、抜歯の際、上顎洞と口腔が交通することがあります。そのため、血液、水、空気などが鼻にもれたり、上顎洞に炎症（鼻閉感など）が起きることがあります。交通した穴が小さく、炎症を起こさなければ穴は自然にふさがります。

抜歯後、数日たっても鼻から水がもれる、鼻がつまるなどの症状が続く場合はご連絡ください。



## 2. 普通抜歯の場合

局所麻酔後、切開や周囲骨を削ったりせずに抜歯をしますが、根の先が残ったり、うまく抜けない場合には埋伏歯の抜歯に準じて処置します。

説明者： \_\_\_\_\_ 科 \_\_\_\_\_ ⑩

以上の説明を受け、処置の実施に同意いたします。

患者氏名： \_\_\_\_\_ 本人  
保護者 \_\_\_\_\_

平成 19 年 2 月 18 日作成